

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年3月31日

評価会議議長 殿

人文社会科学部 学部長
日詰 一幸

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項1
【学部】初年次における学習相談・支援の強化
改善状況
教務委員会を通じて来年度の新入生セミナー担当者に対し、各教員のオフィスアワーなどを利用し個別に学習相談ができること、またそれを推奨することを学生に伝えるよう依頼した。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項2
【学部】「文系的な体験的学習」の在り方に関する整理・検討、および検討結果の教員・学生への周知
改善状況
現時点では、内部質保証・教育企画委員会にて、体験的学習とはアクティブ・ラーニングの一部を構成するものとして規定し、該当する科目の担当者はシラバスにおいてその旨、学生に明瞭に伝わるよう記載することを検討している。具体的には、再来年度のシラバス作成時には、学務係よりその点を教員に周知するものである。 この場合、実際には、シラバスにおけるアクティブ・ラーニングの諸項目のなかで、主には調査学習／フィールドワーク／グループワーク／ロールプレイ／模擬授業／PBLを取り入れている

る科目は、体験型学習とすることになる。

ただし、人文社会科学部としての特色をより踏まえた規定の仕方も必要であるという部内での認識も踏まえ、継続的に審議することとなった。

達成年度（予定を含む）

令和3年度（シラバスに記載される場合には令和4年度に達成される）

改善事項3

【学部】外国語に関する運用能力の向上を図るための取り組み強化

改善状況

留学を促す施策を実施・計画している。既に「留学のためのガイダンス」を年2回（4月と11月）に行うようになっており、海外研修Ⅰ～Ⅴを含む各種留学制度について系統的に紹介している。しかし、これまでガイダンス参加者数が少ないこともあったため、参加者を増やすための工夫を検討・実施を行っている。ただし2020年度はコロナ感染拡大のため前期中にガイダンスを開催できず、11月にオンデマンド方式で紹介・説明を行った。

また、留学を推進するために、2021年度には教務委員会を通じ来年度の新入生セミナー担当者に対して、「教育の国際化」のビデオセット（90分程度）を学生に視聴させるなど、留学への関心を高める時間をセミナー内に設けるよう依頼した。

達成年度（予定を含む）

令和3年度

改善事項4

【学部】自主的学習を促すための方法に関する検討

改善状況

授業方法の改善・工夫を通じて自主的学習を促す方法を、部内のFD研修会を開催することで教員集団として検討した（なお本学大学教育センターが共催）。具体的には、部内FD委員会において、「コロナ後のオンライン教材を活用した大学教育の展望」と題する2名の外部講師による公演とFD委員等を交えた討論の様相を収録した研修用ビデオ（80分程度）を作成した。このビデオをFD委員長名で部内教員に配信し、各自視聴することを促している。とりわけ討論部分においては、オンライン反転学習を活用しての時間外学習を促す方法について議論が及んでいる。

達成年度（予定を含む）

令和2年度（ただし上記ビデオの視聴期間は令和3年9月までとなっている）

改善事項 5
【大学院】プレゼンテーション能力向上を図る取り組みの強化
改善状況
プレゼンテーションの機会を増加させるため、学務委員会にて、以前より部分的には専攻単位で実施されてきた修士論文中間発表会、あるいはそれに類するもの（たとえばコース単位での発表会）を令和3年度より、全専攻で実施することとした。また、口頭試問と合わせた形で実施されてきた、修士論文の最終発表会についても、全専攻で実施することとした。
達成年度（予定を含む）
令和3年度

改善事項 6
【学部】国際的視野の涵養・伸長を図るための取り組みの強化
改善状況
「国際的視野」という用語はもともと「学びの実態調査」内で使用されたものであるが、新設された部内国際戦略WGにおいて、部局内での理念的な検討も通して合意できる規定が必要であるという結論に至った。そのため令和3年度前期中に部内国際連携推進委員会委員を中心とした上記WGで検討を行い、必要な取り組みについて方針を確定することとした。
達成年度（予定を含む）
令和3年度後期

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年4月1日

評価会議議長 殿

教育学部長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
授業時間外における、授業課題や準備学習、復習をする1週間当たりの時間
改善状況
本年度はコロナウィルス対策として対面授業が制限され、在宅学習が実施されたため、平成30年度と比較ができない状況にある。 取り組みとしては、オンデマンド式のオンライン授業は増えたが、対面学習が制限されたため反転学習は行えていない。また、学生アンケートにおいても負担の大きさが指摘されているため、毎週もしくは隔週の小テスト等の導入は困難であった。
達成年度（予定を含む）
改善計画の実施は令和3年度から開始し、令和5年度には達成する予定である。ただし、来年度はコロナウィルス対応の継続が計画されているため、一部後ろ倒しになる可能性がある。

改善事項
インターネットの使いやすさ
改善状況
令和2年度には以下の取り組みを実施した。 ・ eduroamアクセスポイントの増設（5カ所） ・ 附属幼稚園の園長室、教員室のWi-Fi環境改善 また、以下の取り組みを継続している。 ・ インターネットに由来する各種脅威に対する対策の支援・指導 ・ 帯域調査（毎週） ・ 学部が設置したアクセスポイントのメンテナンス（ファームアップデートなど）
達成年度（予定を含む）
教育学部が設置するアクセスポイントに関しては、令和2年度に達成した。 研究室等が設置するアクセスポイントに関しては、令和3年度に運用体制を整備し、令和4年度

には改善する予定である。

改善事項

教員志望率が低い

改善状況

平成30年度の調査時点では、3年生の教員志望率が69%であった。調査が異なるため比較は慎重に行わなければならないが、本年度前期における3年生の教員志望率は68.5%でありほとんど変わっていない。

※平成30年度から導入された教職キャリア形成プログラムがまだ完成年度に達しておらず、異学年交流活動などが行われていないため、その効果が限定的である可能性もある。

達成年度（予定を含む）

令和3年度入学者選抜から小論文が導入されることにより、入学時点での教職希望率を向上させることが期待されるため、令和5年度の3年生で教員志望率の改善を予定している。

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和 3年 4月 6日

評価会議議長 殿

情報学部長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
英語力の向上
改善状況
平成31年度から、英語科目の改善を目指し、英語担当教員で構成される科目検討グループを組織し授業内容の見直しを進めている。令和2年度からコミュニケーションスキルズ1を通年開講にするなど検討結果をカリキュラムに反映した。 カリキュラムや科目の内容変更による効果を確認するために一定の時間が必要であるため、令和3年度以降、内容変更による効果を補足しつつ、今後の内容改訂を検討する。
達成年度（予定を含む）
情報学部では令和2年度から新カリキュラムが開始された。次のカリキュラム改訂に合わせて英語科目の見直しを行うことを目標に、内部質保証委員会を中心として継続的に授業効果を調査・分析する。

改善事項
国際的視野の涵養
改善状況
令和2年度に点検・評価委員会において改善主体等について検討した。令和3年度に関係委員会等において検討を行い、令和4年度から実施する。
達成年度（予定を含む）

令和4年度から実施する。国際性の涵養には一定の時間がかかることが予想される。効果の指標の検討を含め、継続的に効果を確認し改善を行う。

改善事項

学生のリーダーシップ涵養

改善状況

令和2年度に点検・評価委員会において改善主体等について検討した。教務委員会を主体として、学生のリーダーシップ涵養のための授業内容を検討する。令和2年度からの新カリキュラムの効果を確認し、継続的に内容を見直す。

達成年度（予定を含む）

令和3年度以降、内部質保証委員会と教務委員会を中心として新カリキュラムの効果を把握し、次回のカリキュラム改訂を目標にカリキュラムや科目の改訂を行う。

改善事項

地域連携の深化・プレゼンス向上

改善状況

令和2年度に点検・評価委員会において改善主体等について検討した。
情報学部では、学部に地域連携推進室を設置し地域連携活動の深化や広報活動を行なっている。一方、共同研究や受託研究など資金移動を伴った地域連携事業は全学組織であるイノベーション社会連携推進機構が担っている。令和3年度以降には、地域連携推進室を中心に全学組織との役割分担について検討し必要な施策を実施する。

達成年度（予定を含む）

地域連携推進室を中心とした検討を令和3年度に行う。
地域連携の深化には一定の時間が必要と考えられるため、継続的に活動と見直しを行う。

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年3月15日

評価会議議長 殿

理 学 部 長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
授業内容のフォローアップの強化、インターネットを利用した授業の整備
改善状況
学務情報システムを利活用したオンデマンド型（動画配信等の）授業の導入を通じて、対面授業内容を随時学習可能な環境へと整備する等、授業ごとの適切な工夫による学習支援を教授会等で共有した。
達成年度（予定を含む）
継続的に実施する。

改善事項
改善事項：ICT（情報通信技術）活用能力の向上
改善状況
理系基礎科目の数学系科目において、方程式の解、数値積分を題材に、Pythonによる数値解析的内容をオンデマンド教材として組み込むとともに、情報系企業との連携による数理データサイエンス実践演習を試行した。
達成年度（予定を含む）
教養的な数理データサイエンスから有機的に接続する実践的な数理データサイエンス教育の令和4年度開講を目指して準備を進めるとともに継続的に改善する。

改善事項
コミュニケーション能力の向上
改善状況
グループワーク可能な施設の充実とともに、授業（演習）中に学生同士が議論する機会の増加を図ることを教授会等で共有した。オールインワンのデジタル対話型ホワイトボードを設置し、それを活用した創造理学コースの英語研修システムの構築を目指した。
達成年度（予定を含む）
継続的に実施する。

改善事項
静岡大学の地元高校へのPR
改善状況
本学部の魅力を伝えるためのプロジェクトチームを編成し、静岡県内の公立高校の訪問を開始した。現在までに3つの公立高校と交流を開始し、本学部として取り組むべき課題を洗い出すとともに、具体的な活動内容を検討した。そのうち一校とは来年度から実際に説明会・見学会等の活動を行うこととした。
達成年度（予定を含む）
令和3年度には交流する高校数をさらに増やすとともに、本学部の学部説明会などの実際的な交流活動を行う。令和3年度以降も継続して交流活動を発展させるだけでなく、効率的な高大連携を行う仕組みを構築するため、サイエンスカフェ動画の配信などオンデマンド・オンライン環境、コンテンツを利用した様々な活動を試行する。また、より学術的な研究交流計画の立案を目指す。

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年3月31日

評価会議議長 殿

工学部長 川田善正

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学生の英語力の向上
改善状況
学生の英語学習のモチベーション向上を目指し、大学院入試における一般選抜のTOEICスコアの利用の推進、および自己推薦入試でのTOEICスコアの利用について検討した。また、放課後英語教室の利用について推進した。さらに、これまで利用してきた英語のe-learningシステムを見直し、TOEICを主体とした新規e-learningシステムの導入について検討した。
達成年度（予定を含む）
大学院入試における一般選抜のTOEICスコアの利用については、引き続き学生への周知徹底を行った。また、自己推薦入試におけるTOEICスコアの利用については令和3年度に実施することとした。放課後英語教室についてはオンライン授業を取り入れ利用促進を行なった（令和2年度）。また、英語のe-learningシステムを見直し、TOEICを主体とした新規e-learningシステムを令和3年度より導入することとした。

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年5月14日

評価会議議長 殿

農学部長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
数理的な能力の育成
改善状況
旧来の情報処理2単位を、「数理・データサイエンス入門(1単位)」、「情報処理・データサイエンス演習(2単位)」に拡充する。
達成年度(予定を含む)
令和3年度

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年3月25日

評価会議議長 殿

地域創造学環長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
本学における総合的な満足度に関する設問の内、「キャンパス環境・設備」の満足度が非常に低い。地域創造学環の基盤となる施設がないことが要因と思われる。
改善状況
法科大学院棟（教育J棟）および教育学部I棟の令和3年度中の改修工事が決定し、地域創造学環棟と教育学部I棟に入居する一部コースの整備が始まることとなった。また、それに伴い東部キャンパス内に点在していた学環機能が集約され、学生の活動拠点としての施設整備が進むこととなる。
達成年度（予定を含む）
令和4年度からは地域創造学環棟を中心とした施設で学環生が安心して活動することができるようになる予定である。

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年3月31日

評価会議議長 殿

総合科学技術研究科長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
英語（外国語）能力の向上
改善状況
【工学専攻】 英語学習のモチベーション向上を目指し、入試における一般選抜のTOEICスコアの利用の推進、および自己推薦入試でのTOEICスコアの利用について検討した。また、英語対応科目の受講について推進し、令和2年度は大学院開講科目210科目のうち、43科目の英語対応科目を開講した。また大学院生の海外研究機関との交流を促進した。
【情報学専攻】 学部英語授業の見直しに伴い、大学院の外国語教育も学部とシームレスに継続できるよう検討を開始した。
達成年度（予定を含む）
【工学専攻】 自己推薦入試におけるTOEICスコアの利用について令和3年度に実施することとした。英語対応科目の受講の推進や大学院生の海外研究機関との交流は各年度において推進した。
【情報学専攻】 令和3年度に検討・分析をまとめ、令和4年度以降、継続的に実施する。

改善事項
学生のリーダーシップ力の向上のための教育プログラムの導入
改善状況
【工学専攻】 学生のリーダーシップ力を高めるための教育プログラムとして、「産業イノベーション人材育成プログラム」を導入した。

達成年度（予定を含む）
【工学専攻】 平成30年度。

改善事項
国際的視野の涵養
改善状況
【情報学専攻】 情報学部国際交流委員会を中心に検討を開始した。
達成年度（予定を含む）
【情報学専攻】 令和3年度に検討・分析をまとめ、令和4年度以降、継続的に実施する。

改善事項
プレゼンテーション能力の涵養
改善状況
【情報学専攻】 プレゼンテーション能力の涵養に関する取り組みの現状把握を開始した。
達成年度（予定を含む）
【情報学専攻】 令和3年度に検討・分析をまとめ、令和4年度以降、継続的に実施する。

改善事項
キャリア形成の支援
改善状況
【理学専攻】 各研究室の研究活動において、学生間の実験の相互協力や質疑応答機会の充実により協働性やチームワークの育成を促進するとともに、研究テーマの適切な遂行を通じてリーダーシップに必要な不可欠な論理性、計画性や実行性を指導し、特に、APSOT3におけるYoung Researcher Award 1件、原子力関連の優秀賞3件、地球科学系の学会における学生優秀発表賞2件という成果があり、研究活動がリーダーシップに繋がる人材を育成することに役割を果たしている。学生支援センターの協力を得て企業等において実習・研究などの就業体験を行える科目を開講しているほか、情報サイト系の会社の協力を得て学部3年生及び修士1年生を対象としたオンラインガイダンスを開催することによりキャリア形成を支援した。
達成年度（予定を含む）
継続的に実施する。

(別紙様式2)

学生等評価改善状況報告書

令和3年3月31日

評価会議議長 殿

創造科学技術大学院長

学生等による評価に関する基本方針第4および学生等による評価に関する実施要項の3に基づき、平成30年度実施学生等評価結果に係る改善事項について、令和2年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
英語教育の強化
改善状況
国際会議・シンポジウムへの参加の奨励 静岡大学主催の電研、グリーン研、創造、超領域研究推進本部、光医工学研が共催する国際シンポジウムへの参加を奨励する。さらに、その他の国際会議・シンポジウムへの参加を奨励する。令和2年度の静岡大学主催第7回国際シンポジウム「ISFAR-SU 2021」は2021年3月5日に開催され、創造科学技術大学院より26名の学生が参加し、予稿集作成、動画作成を通じて英語によるコミュニケーションの能力の向上を図ることができた。
英語関連科目のアナウンス（令和3年度実施予定） ガイダンス時に、創造科学技術大学院で「実用科学技術英会話Ⅰ、Ⅱ」、「科学技術文書表現法」を開講していることをアナウンスする。
達成年度（予定を含む）
令和3年度